

第3回北杜市立小中学校適正規模等審議会 会議録

1. 会議名：第3回北杜市立小中学校適正規模等審議会
2. 日時：令和2年7月20日（月）午前10時00分～12時07分
3. 場所：長坂総合支所 2階大会議室
4. 出席者：
（委員）清水一彦・川村めぐみ・日永龍彦・清水政英・藤原廣吉・
清水永一・坂本利訓・丸茂 浩・小石 博・三井正三・
輿石長時・坂本美樹・輿石義彦・清水 潤・細川英雄・
瀧澤 真・高木ひとみ・保坂行美・三井成司・小野光一・
南 陽子

（事務局）堀内教育長・中山教育部長・堀内教育総務課長
天池総務担当リーダー・安部施設担当リーダー・
白倉学校教育担当リーダー・総務担当柳澤
5. 議事
（1）地域説明会の結果報告について（資料1）
（2）審議スケジュール等について（資料2）
6. 公開・非公開の別：公開
7. 傍聴人の数：4人
8. 議事録署名委員：丸茂委員、小石委員

議 題

- （1）地域説明会の結果報告について
（会 長） それでは事務局に説明を求める。

（事務局） （事務局より資料を用いて説明）

（会 長） ただ今、事務局より説明がありましたが、何か質問、意見、要望はあるか。

（委 員） 9教科の教員が揃っていない現状に対して、東京であっても家庭科などは免許外教員が担っている現状があり、工夫して対応していた。教員不足に対しては、中学校だけでなく小中全体で対応できるように考えるべきではないか。

- (委員) 出席した地域説明会では、北杜市の教育を今後どうするか、という観点での発言が少ないと感じた。前回の説明にもあったとおり、10数年後には生徒数が減少して適正規模の生徒数が維持できない状況になる。
一学年何学級でどうやって行くのか、より良い教育の方向性、可能性を示して検討していくべきだ。
- (委員) コロナによって教育現場にも変化が起きている。学校を集中させるという選択肢はあるが、分散という選択肢もあるのではないか。ポストコロナの新しい生活様式を踏まえた教育を考える必要がある。
- (委員) 地域説明会で何を検討するのか説明されていなかった。
第1～2回の審議会でも、北杜市全体での良い教育環境は何か、充実した学校教育はどういうものなのか、ということは議論されていない。このようなことを審議会でも明確にせずに、地域で統合する、しないという議論をしようとしても、議論できないのではないか。
- (委員) 少子高齢化が必ず進むので、それを踏まえて将来を考えるべきで、地域として地元にある学校があるかないかは非常に重要である。人数の均等化ではなく、例えば学校によってはサッカーに特化してチーム活動ができる人数を集めるとか、少人数の学業に特徴があるとか、住んでいる地域によらず、子どもの特徴に合わせて学校を選べるようにするというのも良いのではないか。それが北杜市のカラーになればいい。
- (委員) 「原っぱ教育」とは何か。理念を語るのはいいが、それをどう具体化していくのか考えるべきである。私たち委員には教育についての知識が少ない者もいるので、責任を持って適正規模を検討していくために必要な財政状況、合併や小規模校のメリット・デメリットなどの情報を提供して欲しい。
- (会長) 現場の校長先生からいかがでしょうか。

- (委員) 大規模校、小規模校それぞれにメリット・デメリットあるが、現状の規模では教員数に限界があるのは事実。部活数も限られてしまうので、部活動の運営を学校の統合と別に考えて、社会体育など広い地域で独自の運営にしていくのはどうか。
- (委員) 部活動については、社会体育活動と一緒にすることで、社会体育活動を活性化させる事例もあり、様々な方向から考えることも必要である。
また、アフターコロナの新しい社会では、ICTを活用した教育のデジタル化も意識していく必要がある。基盤整備等を含めた全国的な動きに対応していくことも求められる。
- (委員) 日本中が少子化問題を抱えている。北杜市の子どもたちの数を増やすことも考えるべきである。
- (委員) 適正規模検討は、市が具体的にどうしたいかという素案がなければ考える事が難しい。市としては、どう考えているのか。
- (事務局) 市としては、白紙の中で統合するのか議論していただきたいと考えている。予算等を含めたデータを示しながら、ご検討いただくことを想定している。
- (会長) 地域説明会の結果に対する質問等については以上とし、今後のスケジュールについての審議に移る。
- (2) 審議スケジュール等について
- (会長) それでは事務局から説明願います。
- (事務局) (事務局より資料を用いて説明)
- (会長) ただ今、事務局より説明があったが、昨年度は議論を開始した年、今年は市民による議論の年としようということである。議論をしていくために、ワークショップを行うスケジュールが提案されている。また、令和3年度には結論を出したいという目標が設定されている。何か質問、意見、要望はあるか。

- (委員) 中学校の現状維持か統合かに限定して検討するのか。ゼロベースでの議論ということだが、新しい学習指導要領の中で小中の連携や就学全体の連携への動きもある。小中学校の垂直統合について、市はどう考えているか。
- (事務局) これまで、小中学校の適正配置を進めてきた中で、小学校については統合が進んでいるが、中学校については合意を得られず、進んでいないという実情がある。そのため、中学校についての議論を進めたいと考えている。しかし、議論にあたっては、中学校だけでなく小中一貫の可能性も含めて、中学校の教育のあり方を議論していただきたい。
- (会長) 中学校に特化した検討ではなく、北杜市全体としての学校教育の最適化について検討してもよい。
- (委員) 4頁の前提があると、現状維持と統合の2者択一になってしまう。なぜ現状維持・統合なのかという元をたどって議論しないと結論が出ずに繰り返しになる。審議会としてどのような教育を目指すのか方向性を持ったうえで、ワークショップなどで地域の学校について検討すべきである。
次回の審議会では方向性を決定するようなスケジュールでやらないと意味のあるワークショップが開催できないのではないか。
- (委員) 地域説明会でも、北杜市のビジョンが求められたと理解している。
ワークショップの参加者について、当事者である子どもたちがどう考えているかが反映されないので、当事者（子ども）も入れられないか。
- (事務局) 当事者（子ども）については、ワークショップでなく、学校に赴いて直に意見を聞く機会を設ける予定である。
- (委員) 保育園の保護者にも意見を聞いたらどうか。
- (委員) 当事者（子ども）だけでなく、保育園から中学校まで、保護者

の意見も聞いた方がいい。

(委員) 今後どう進めていくべきかについては、スピード感を持って議論を進めないといけない。議論すべきは、子どもたちが良い環境で教育が受けられるようにサポートしてやることであり、来年度、結論を出して具体的に進めないといけない。

(委員) スピードある議論を行いたい。結論に大きく影響する内容として市の財政がある。学校教育に割り当てられる金額の幅など提出していただき、人口推計も見通して具体的な対応を検討したい。

(委員) 何が適正かと考えた時に、生徒数の均等化ではなく、地域に合った学校が作れば良いと思っている。
通学している子どもたちに意見を聞くことは良い事だと思う。ワークショップに参加させるより、アンケートで広く意見を聞くという方法もあるのではないか。

(会長) 国が示す標準規模も概念であって、適正とは言っていない。何ををもって「適正」とするかについて審議会で議論していきたい。

(委員) 私の地域では、保育園、小学校、中学校が廃校になって、何も無い地域になった。スクールバスは回ってくるが、保育園バスがないので親が送迎している。
中学校がなくなる地域の意見は大事なので、ちゃんと聞いて欲しい。

(委員) ワークショップで配布する資料は、保護者など全員に配布して、事前に何をやるのか知った上で、意見があれば参加されるPTA役員などに伝えられるようにした方が良い。

(委員) コロナの状況下でも、子どもは柔軟性があって順応できたことをみると、子どもが地域においてオンラインで教育することも可能だと思える。しかし、人が集まることも重要なので、子どもたちが学校へ行きたいな、楽しいなと思えるような状況にして

いきたい。

(委 員) 学校統合に伴うメリット・デメリットはあるが、スピード感のある議論にするにはデメリットを最小するように検討を進めればいい。

(会 長) 昨年度の検討でメリット、デメリットは洗い出しているため、共有する。

(委 員) 小学校の校長として、これまで人から学ぶこと、地域と連携した特色ある学校づくりを進めてきたが、コロナで休校になってできたことは家庭訪問くらいで、オンライン授業などはできなかった。社会環境がアナログからデジタルに変化しており、授業もオンラインできるようになってきているが、アナログ的な発想とデジタル的な発想を融合するような教育のあり方を考えなければならないと感じている。

(委 員) 次回の審議会では、今後の議論の土台を作っていくことが重要である。教育のあり方を議論するのであれば、事前に議論を進めるための方向性を作っておく必要がある。

(委 員) 北杜市の教育について、取り得る方向性を出していくことが、次回の審議会で見たいアウトプットだ。事務局の皆さんだけで考えるのは大変なので、委員も手伝いながら準備を進めるのはどうか。

(会 長) 次回審議会は、今後の北杜市の教育はどうあるべきか、適正とは何かについて、検討する準備はできるか。

(事務局) 事務局としては、あり方について審議いただく為の材料として、少子化により全国的に規模が縮小している中で、他地域での取り組み、先行事例の紹介、財政状況の資料などを提供する予定である。教育のあり方の検討は、それらを基に審議会で議論を進め、スケジュール上は並行してワークショップの準備を進めるというやり方で進めたい。

(会 長) これまでの議論を踏まえると、北杜市におけるより良い教育とは何か、適正規模とは何か、どのような方向性があり得るのかといったことを議論する必要があるように思う。次回の審議会は、議論が必要な項目をあげていただき、それについて議論をする場とできればと思う。

閉会

終了